

黒塚 Sept.

(くろづか・セプテンバー)

作 前橋南高校演劇部・原澤毅一

登場人物

大淵 (ぶっち)

三森 (なっちちゃん)

中西 (かに)

伊藤 (うっしー)

大淵の弟

大淵の部屋。

上手にドア。下手に窓、その下にベッド。中央には座卓がある。衣類や本が散乱している。壁にはジミ・ヘンドリクスとドアーズのポスター。

蝉の鳴き声といってもツクツクボーシ。季節は晩夏。

大淵ベッドで昼寝。ケータイの着信ランプが点滅している。

大淵は目覚めてケータイをいじくる。寝過ごしたことに気づき、しかし慌てず電話をかける。

大淵

もしもし、ごめん。寝てた。……今どこ？ あ、ミスターマックス？ じゃあね……うん……あ、そんなとこまで。じゃあもう近くだ。……うん……そう、その小池商店の看板のところを右で、……で、お地藏さんがあって、牛小屋があって……そうそう森みたいな。……んとね、ねずみ色で黒い屋根の家……うん、……うん、じゃまたかけて。はい。待ってマース。

大淵窓から顔を出しながら確認し、振り返って部屋の中を見回し、とりあえず片づけを始める。

するとまた電話が。

大淵

はい、あ、かに。……うん。場所わかる？……うん玉村からだど小池商店の看板を左……OK？……わかんなくなったら電話して……んー、かに自転車こぐの速いから、二十分くらいじゃないの？ はい……はい……はい。じゃ待ってまーす。

するとまた着信。三森であるようだ。

大淵

おーい。なっちゃーん。いまそっち行くよ……

階下に迎えに行く。三森と二人で上がってくる。

三森

おお、渋い部屋だ。

大淵

そう？

三森

これジミヘン？

大淵

マイケル・ジャクソン。

三森

うそつけ……暑いね

大淵

暑い

三森

あー疲れた。(と座り) はいこれ(トコンビニ袋をわたす) ぶっちの分しかないけどオレンジシャーベット。

大淵

おお、ありがとう。なっちゃんは食べないの？

三森

いや、わたし糖尿病だから。……食べたまえ。

大淵

ああ、……糖尿……じゃいただきます。

三森

いや暑かった。ここまで。伊勢崎駅って何にも無いから、

大 瀨 ないよ、伊勢崎駅は。

三 森 んでその辺ある歩いてるおばさんに聞いてもらった。ミスターマックス。

大 瀨 申し訳ない。……なっちゃん駅まで迎えに行く気でいたんだけどさ。

三 森 いや、道はわかりやすかったんだけどね。ミスターマックスまで来たからこのまま行っちゃえ
 と思つてさ、歩き始めのはいいんだけどさ、日陰がないからさ、コンビニ寄つて、ジュース
 買って飲んで。どうせまだ時間早いからぶつちしかいないだろうと思つてね。一応おみやげ。
 みんな来る前に食べちゃつて。(と汗を拭きながらぐだぐだとリラックスしている)

大 瀨 ごちそうです。二時半に駆つてのはわかつてたんだけどさ。親もいないしさ迎えに行きようが
 ないからどうしようかなつて思っているうちに寝ちゃつたんだよね。

三 森 だと思つたよ。……や、お構いなく。

大 瀨 でね、かにかいま家を出てこつち向かつてるって、自転車で。

三 森 玉村は自転車か。近いの？

大 瀨 まあ、たぶん。かにだから。これなつかしいね。

三 森 ああ、シャーベット？

大 瀨 むかし食べた気がする。

三 森 ああ、そう。

大 瀨 食べなかつた？

三 森 たべなかつた。

大 瀨 なんで？

三 森 だから、糖尿。

大 瀨 じゃメロン味も食べなかつたんだ。

三 森 はい。

大 瀨 これのメロン味もすごくおいしいよ。

三 森 ……あのエアコンつけていい？

大 瀨 ごめん、あたしエアコン苦手なんだ。どうぞ。(と団扇を投げる)

三 森 ああ、はい。

大 瀨 うち、すぐわかつた？

三 森 んーと、お地藏さんじゃなくて道祖神だったけどね。

大 瀨 え、ドウソジンって……何？

三 森 道端にある……お地藏さんみたいなもの。

大 瀨 それは、いいや。でね、モッキーが来られないって。

三 森 なんで？

大 瀨 風邪ひいたって

三 森 ……それ、やばくないの？

大 瀨 ……んー大丈夫じゃないの？

三 森 ……。

大 瀨 で、さっきから電話があつて、こつち向かつてるって。

三 森 それ、聞いた。

大 瀨 あとは、うっしーか。

三 森 あ、うっしーは親の車で送ってもらつて。遅れるかもってメールが来た。

大 洩 あとカズちゃんも来ると思うよ。
三 森 ……あー。…カズちゃんってうちどこ？

大 洩 高崎

三 森 高崎か

大 洩 カズちゃんは来るよ。絶対に。

三 森 うん。…じゃキャストは全員来るのか。

大 洩 一ヶ月ぶりだね。

三 森 いやもつとでしょ。一ヶ月と…十日くらいかな。

大 洩 そっか。

三 森 最初に連絡網でまわって来たの七月二十七とか人とかだったよね。

大 洩 ……だっけ。…暑いね。

三 森 うん。というか、ほとんど誰にも会ってないけどね、高校の人。中学んときの友達は道とかで会うの、さすがに。高校の人はケヤキ行ったときくらいしか見ない。

大 洩 ケヤキにいるんだ。

三 森 いるいる、いやほとんど全員いるよ。

大 洩 全員はいない。

三 森 いや、でも高校生だらけだよ。何かみんな髪とか染めちゃってわかんなくなってるけどね。マस्कもしてるし。

大 洩 へー、みんな茶髪か。自由だな。

三 森 いや自由ってか、黒い頭でいると警察に止められるんだよ。高校生かって。

大 洩 ほう

三 森 むしろ茶髪のほうがスルーしてくれる感じ。だからあたしも八月に一回茶色くしたんだけど。

大 洩 あ、それ見たかった。

三 森 いや結局バイトしかしてないからそんなに出けなかったし、茶髪の意味無かったんだけど。あんまり茶色だとバイト先で文句言われるし。さすがに九月には学校はじまるかもしれないと思っただけなのに、結局始まらないしね。染めなきゃよかった。

大 洩 ーな。あたし何にもしなかった。どこにも行かなかったよ。

三 森 宿題やった？

大 洩 やるわけないじゃん。そんないつ始まるのかもわかんないのに。

三 森 いつはじまるのかね。

大 洩 わかんない。

三 森 ぶつち、もう少し部屋、片づけた方がいいよ。

遠くで雷の音。

三 森 あ、雷？

大 洩 雷だ。

三 森 かに大丈夫かな。

大 洩 方向オンチっぽいよね見た目が。しかも自転車であの黒い髪じゃ絶対警察に止められるよね。

三 森 ああ、いかにも捕まりそう。もう高校生まるだし。

大 瀧 茶髪にしないだろうなあ。似合わないそうだよ。てか見た目が中学生だもん。
三 森 もう中学生。

大 瀧 でもかに警察に捕まっても、いいわけがうまそうな顔だよ。

三 森 たしかに。なんかいかにも優等生っぽい説明で信用させちゃう感じがする。
大 瀧 かにだしね。

三 森 ……かにだし。

大 瀧 暑いね

三 森 暑い

大 瀧 セミうるさいね。

三 森 うるさい

大 瀧 なんか暗くなってきたぞ。

三 森 電話してみよっか。

大 瀧 あ、かけてみるね。(と電話) あ、もしもし。いまだこ……うん。うん。……あ、それ近く。

ねずみ色で黒い屋根のうち、見える？ あ、ちよつと待って。(窓辺にいく) おお、かに。何か持ってる。やろう、来やがった来やがった。かにきたよ。(中西に) あ、入って、二階上がつてきて。(三森に) なんか黒いよ。(その間三森は本棚を見ている)

何か渋いマンガ読んでるね。ぶっち。

三 森 ああ、『マカロニほうれん荘』……知らない？。

大 瀧 知らないよ。

三 森 名作だよ。

大 瀧 六巻だけ無いよ。

三 森 たぶん、弟。

大 瀧 弟いたんだ？

三 森 うん、渋いよ。うちの弟は。

大 瀧 てか、本も片づけところだよ。(読み散らかしている本をまとめて本棚へ)

中西部屋に入ってくる。

中西 おじゃまします。うわ、渋い部屋。

三 森 さすが、時間通りにきた。

中西 や、何かすごい部屋……あ、これおみやげ。

大 瀧 さすがに、気が利いてる。道迷わなかった？

中西 これ、ドアーズ？(壁のポスターを見て)

大 瀧 そう。

三 森 これマイケル・ジャクソン。

大 瀧 値打ちもんだよ。

中西 マイケルか、渋い。

大瀧と三森、馬鹿にした笑い

と、雷が聞こえる。

大渕 おお、近くなってきた。
三森 降られなくて良かったね。
中西 うん。でも暗くなってきたからあせった。
大渕 黒いね。
中西 黒いよ。
大渕 どっか行ったの？
中西 まあ
大渕 日サロ？
中西 いや、ちよつとモナコへ。
大渕 このお菓子は？
中西 モナコの
三森 モナコにシミコーンがあるんだ。
大渕 日焼けサロン「モナコ」？
中西 いやいや、ホントにモナコ。
大渕 なんてそんなにVIPなのかにん家は？
中西 いやいや、普通です。
大渕 普通こんな時に海外行く？
中西 おじいちゃんの家があるから。
大渕 は？ おじいちゃん日本人じゃなかったんだ。
中西 ……実はね。
三森 おばあちゃんはエクアドル人もんね。
中西 いや、…：…そう。
大渕 でも玉村に住んでるんだ。
中西 そう
大渕 リアクション薄いな。
中西 食べて、シミコーン。
三森 これおいしいよね。
大渕 食べよう。あ、なんか飲み物持ってくるね。

大渕階下へ（三森と中西、じっと待っている）

大渕 これしかなかった。
三森 あ、三ツ矢サイダー。
大渕 あ、なっちゃん糖尿だった。ごめん。
三森 それ、普通言う？…：…いや糖尿っていつでも私じゃないよ、親がね。まあいいや、いただきます。
大渕 す。

三人はしばし無言でシミコーンを食べている。

三森 あ、モッキー風邪だって。

中西 えーっ、それやばくない？

大淵 そうなの？

中西 だってモッキーで中学どこ？

大淵 なんて？

中西 あれでしょ。死んじゃったの高崎の方なんでしょ。モッキー高崎じゃないんだっけ？

三森 もつきーは違うでしょ。高崎は音響の子でしょ。

大淵 あ今度入るって子？ 何だっけ？

三森 「みこっちゃん」

大淵 そうそう、みこっちゃん。

中西 いやみこっちゃんて子は玉村なんだけど。

三森 ちがった、カズちゃんだ高崎は。

中西 カズちゃん？

大淵 カズちゃんは大丈夫だよ。絶対に。頑丈だから。

三森 カズちゃんはいつもマスクしてるしね。

大淵 してないよ

中西 カズちゃんって、ああいつも鼻に綿詰めてる人？

三森 でいつも口で息してるから「はあはあ」って呼吸がうるさい人。

大淵 いや、それはひどすぎるでしょ。カズちゃんに対して。

三森 すいません

中西 え？カズちゃんは……

大淵 今日は「行けそうなら行く」ってメール来たよ。

三森 カズちゃんらしい。

中西 じゃあと来るのは？

三森 うっしーだけ。

大淵 あとカズちゃん。

中西 ということは、キャストがこの三人とうっしー……とカズちゃん。

三森 で照明がモッキーで音響がみこっちゃん……ということか。

大淵 おお、いけそうだ。

中西 いけるかな

三森 二週間しかないよ。

大淵 今日何日？

三森 四日

中西 学校始まったら、ちようど二週間ってところか。

大淵 行くでしょ、一週間あれば。

三森 んー、どう？

大淵 行くしかないっしょ。

中西 あ、先生に聞いたら、やっぱり大会やるかわかんないって。

三森 それ一番困る。

中西 一応やる予定ではあるらしいんだけど。……昨日の打合会議が流れたからね。

三森　　そうか。

中西　　ほとんど無理だろうって。

三森　　上演順も決まってるないんだもんね。

大瀨　　でもあつたらどうなるの？

三森　　ってか、芝居作ってる学校あるの？

そのとき夕立の雨が激しく降ってくる。

中西　　雨だ。

三人何となく窓の外をうかがう。

しばらく黙り込んでいる。

中西　　もうできちゃってる学校あるのかな。

三森　　ないでしょ、だって部活禁止だったんだもん。

中西　　だよ。

大瀨　　じゃあ地区に出たところが一校ならそこが選ばれるの？

中西　　そうなんじゃない？

と、稲妻が光る。

中西　　ひっ。(と激しくおののく。振り返って三人目が合う)

三人　　えーっ！

中西　　いやいやいやいやいや！(と取り消そうとするが)

女達、中西を笑っている。中西、言い訳をするが……

雨、次第に小降りになってくる。

三森　　あれ、もう止んできちゃった。

大瀨　　天気、変だよ。

三森　　今年は晴れなかったしね、お盆過ぎたら秋みたいでき、いろんな意味で夏休みなかったね。
大瀨　　じゃあさ、なんでもいいから出れば県にいけるってことだ。

中西　　え？

大瀨　　だから地区大会。

中西　　ああ。……そうなんじゃない。でも。

大瀨　　でも？

中西　　いや、県大会ってあるの？

大瀨　　あるんじゃない？

三森　　そんなら出た方が得だよ。でもさ、地区大会あったとして、お客さんとかいないでしょ。
中西　　いないだろうね。

大 外出禁止が解ければ……来るでしょ。
 三 でもあと二週間だよ。
 中 きびしいよね。
 大 そう？……そんなにやばい？
 中 だって群馬で二人だよね。
 三 東京って十人くらいでしょ。
 大 きのうもあつたよね、長野だっけ。
 大 むりか
 三 いや、うれしいけどね。実際学校無いのって。
 中 部活禁止つてのが痛いよね。
 三 小学生並に休んだね、一ヶ月。
 大 いや、作ろう。
 三 でもさ、何作る？……ってかいつ作る？
 大 いま作るんだよ。
 中 先生は「無理しなくていい」って。
 大 投げやりだな。
 三 しかし、何作る？あと二週間だよ。
 中 それが問題だよね。

間

三 実際、作りようがないでしょ。
 大 あれならできるんじゃない？……「能」。
 三 またですか？
 大 だって、台詞要らないんだよ。
 中 まあ、確かに。
 三 「能」って言っても、「能」じゃないよね。「能」のムードにかこつけて台詞なしでも、まあ、
 中 それっぽく見える、という。
 中 ネタをばらせば。
 大 そうかなあ。けっこう好きだけどな。

その時三森の電話が鳴る

三 あ……うん、来た。はい、うんとね、小池商店の看板を左で、……そう。で、お地藏さんで、
 大 牛小屋があつて……で（大淵に）なんだっけ？
 三 森みたいのがあつて、黒い屋根でねずみ色のうち。
 大 ……そう、森みたいなので、黒い屋根で、ねずみ色。……うん。はい、はい。
 大 うっしー？
 三 うっしー。もう来るって。
 中 うっしー高崎だよね。

三森 うん
大淵 何？
中西 いや、例の子って高崎だよな。
三森 二中だっけ？
中西 うっしーも二中だったよね。
大淵 そうか

間

中西 雨、やんだの？
大淵 (外を見て) まだ少し降ってる。
三森 うっしー車で良かったね。
大淵 ほんとだよ。あ、竜巻だ。
中西 え！ホント！（と窓に）
大淵 嘘だよ。
中西 ……何だ。……あせった。
大淵 竜巻も怖いんかい？
三森 ビビリだな、かには。
大淵 かにーい（とうれしそう）弱すぎなんだよ。彼女できないぞ。
中西 ……
大淵 あ、来たみたい。
中西 何が？
大淵 うっしーだよ。
中西 ああ
三森 びびった？
中西 いや別に。（とさすがに不機嫌）
大淵 おーい。（みんなに）マスクしてる。（窓から）うん、入ってー。
三森 うっしーか、久しぶりだな。

その時ドアが開いて、弟が部屋へ入ってくる。その後ろにびったりとうっしー。
弟は本棚へ直行し「マカロニほうれん荘」第六巻を返却し、第七巻を持ち去る。
弟はまるでだれにも見えていないかのごとく、周囲の視線は伊藤に集中。

三森 おお、うっしー。
伊藤 あ、すいませーん。（とマスクを取りながら挨拶）
大淵 うっしー久しぶり。
伊藤 あ、お久しぶりです。すみません、遅くなりました。
大淵 なんか飲む？
伊藤 あ、大丈夫です。あります。（と鞆からペットボトルを）（中西に）なんか、黒くないですか？
中西 え、そう？

三森 モナコ焼けだそうです。

大瀨 玉村焼けだよ。

中西 玉村、日差し強いんで。

三森 うっしー大丈夫？

伊藤 え？ 何ですか。

三森 いや、なんか二中の子なんでしょ。

伊藤 そーなんすよ。うちの近所大騒ぎですよ。

大瀨 だれも道歩いてないとか？

伊藤 いやそうかも知れないです。外でないからよくわかんないですけど。だから、今日も親が送ってくつて、電車で来ようとしたんすけど。

三森 やっぱり大変だね高崎は。

中西 玉村は全然ふつうだけだな。

大瀨 そりや玉村はねえ。

中西 あ、ひどい。

三森 玉村ってふつうに花火大会もやったよね

伊藤 え、三森先輩行っただんですか？

三森 ……行かないけどさ、噂では。

伊藤 前橋は花火中止だったんですか？

三森 前橋は…大雨降ったから行かなかったんだけどね。

大瀨 甲子園とか、普通にやったんでしょ。

三森 こないだ決勝やってたよね。

伊藤 なんて演劇だけ中止なんすか？

中西 野球は、野球だから、さすがに。

三森 時期がね、早かったからじゃない？ お盆過ぎてから騒ぎが大きくなったからね。

中西 ほら、梅雨明けてから一気に広がったんだってね。湿気の関係で。

伊藤 おお、なるほど。

大瀨 別に中止じゃないんでしょ？

中西 中止じゃないけど、たぶん無いだろうって。

伊藤 え、大会ないんですか？

三森 学校がないんだからね。

伊藤 え、じゃ部活どうするんですか

三森 それを決めようよ。

中西 学校に集まらないんじゃないか。

大瀨 だから練習しないでできるのにしようよ。

三森 でも能は…

伊藤 能……つてあの能ですか。

大瀨 そう

伊藤 塚越先輩が白塗りして、学生服着たやつですか…。

大瀨 そうそう

中西 でもやっぱキツイかな、能は。

大淵 やなの？
中西 やじやないけど。さすがにね。
三森 もう二回やってるしね……またかって思われるのもね。
中西 それに台本……誰が書く？
大淵 先生書いてくれないの？
中西 もう「能」は飽きた……って。
三森 だよね。
大淵 でも何でもいいならとりあえず「能」でよくない？

間

中西 一応ね、三部作の構想はあったらしいよ。
大淵 「能」の？
中西 そう
大淵 先生が？
中西 や、春頃の話だけどさ。「黒塚」っていうのを考えてるって。
三森 クロヅカ？
伊藤 人の名前ですか？
中西 元になる話の……タイトル？……「塚」ってのは、お墓のことね。
伊藤 はあ
大淵 どんな話？
中西 あ、ちよつと待って。(カバンを探る)
三森 ……何？
中西 調べた。インターネットで。
大淵 おお、さすが部長。
大淵 いいよ、だいたいでいいから説明して。
中西 そう、……お坊さんがね、何人かで旅をしてるんだけど……
三森 それって男が二人以上必要じゃない？
中西 無理か？
三森 無理でしょ、その時点で。
大淵 まあ、聞こう。
中西 ん……でね、山のなかで夜になっちゃて、たまたまあった一軒家に泊めてくださいとお願いする。
大淵 うん
中西 で、その家はきれいな女の人がひとりで住んでたんだけど、しょうがないですねと泊めてくれ
大淵 たわけ。
三森 危険なかんじだ。
中西 で、その女の人はずな夜中に出かけようとする、と。
大淵 はい
中西 で、留守の間、奥にあるお札のいっぱい貼ってある部屋は絶対のぞかないでくれと。
三森 何かに似てるぞ。

中西　で、お坊さん達のひとりがどうしても我慢できなくなって、その部屋を覗いてしまうとすると？

中西　なんと人間の白骨化した死骸がいっぱいあったと。

三森　はあ

伊藤　怖くないすか？

中西　で、結局その女の人の正体は人をとらえて食う鬼だったと。

大瀨　鬼か

三森　で？

中西　で、慌てたお坊さん達は山道を必死になって逃げるんだけど、鬼に変身した女の人が猛スピー

ドで追いかけてくる……みたいな。

大瀨　それで……どうなるの？

中西　で家とかも消えて……ん、で何かよくわからない。終わり？

伊藤　それで終わりすか？

中西　うん………だいたい。

伊藤　えー

三森　いや、「能」ってそんな感じなんだよ。

大瀨　え？……つまり、食べられそうになったと。

中西　いや、食べようとしたのかは知らないけど。あ、そうそう、お坊さん達がお経を唱えて、鬼は苦しんだ末、とうとう成仏して、お墓に入った………んだっただけ………かな？

三森　しつかりしてよ、かに。

大瀨　じゃすべては幻だったと。

三森　そういうオチか。

大瀨　面白い。

三森　面白い？

大瀨　面白くない？

中西　……微妙、かな。

三森　てか、キャストが足りないよね、明らかに。

大瀨　え？お坊さん、何人？

中西　んー、四人くらい、かな？

伊藤　ぜんぜん足りなくないすか？

大瀨　じゃあ、あたし達がお坊さんやるからかに女やりなよ。

中西　えー、それはカンベン。

三森　まだ、足りないでしょ。

大瀨　え、あとカズちゃんがいるよ。足りるよ。

伊藤　カズちゃんって誰ですか？

三森　あー………ま、お坊さんの人数はどうにでもなるだろうけどね。

大瀨　ちよっとかに、鬼やってみて。

中西　え？

三森　わーい、やってやって。

中西　いやさすがに、ムチャぶりでしょ。

大 渕 かにい、ほら何か、こんな感じ。(手真似)「待てえ」って。

中西、いやいやながら鬼の真似
みんな失笑

中西 いや、まじめに考えようよ。

そこへ急に弟がドアを明けて

大 渕を廊下へ呼び出す

伊 藤 カズちゃんて誰ですか。

三 森 いるんだよ、あっちの方に。

中 西 ぶっちの想像上の友達っていうか、流しといて。

伊 藤 ああ……はい。

大 渕戻ってくる。

大 渕 (皆に) ゆっくりしてって、今日親帰るの遅いみたい。

中 西 五時か

三 森 雨やんだ。最近さすがに夕方になると涼しいよね。

伊 藤 あ、それ思います。全然ちがいますよ。

虫の鳴き声が遠くから聞こえてくる。

大 渕 今日さ、決めちゃおうよ。何やるか。

中 西 でも、できるのなんて無いよ。

大 渕 決めとけばさ、ひとりひとり準備できるでしょ、家で。

三 森 いや、甘くないか？

伊 藤 でも、決めたいです。もう暇すぎで、毎日。

中 西 確かに、飽きたよね。夏休み。

伊 藤 どこにも行くなっていうから、どこにもいかなかったし、雨降るし。テレビはのりピーと選挙
のやつばかりでつまんないし。
三 森 のりピーはいいけど選挙はキツかった正直。

間

中 西 全国大会の見た？BSでやったヤツ。

三 森 見てない。

大 渕 いったっけ？

中 西 三十一日

三森 ビデオ撮った？

中西 撮らなかった。ごめん。

大淵 かにい

伊藤 そんなのやるんすか？テレビで……

中西 全国大会の入賞したヤツを、東京でまたやるんだけど、その番組がある。

伊藤 はあ

三森 あたし去年も見なかった。てか、そのころまだ演劇部入ってなかったし。

大淵 そんなのあるの忘れてた。どうだった？

中西 ……すごかったよ。

伊藤 どんな感じですか？ たとえば……

中西 ん、何か、歌って踊って……みんな死ぬ、みたいなの？

三森 は？

大淵 歌って踊ってみんな死ぬ、か。いいな。

三森 いいか？

伊藤 あとは？

中西 ん、あとはいじめられて、死ぬ。

大淵 それは、やだな。

三森 よく死ぬな。

伊藤 死なないヤツは？

中西 え？ ……あとは、おばあちゃんが……死んで……

三森 死なないヤツだよ。

中西 え？ ちょっと待って、あとは……あ、鬼が来て

大淵 鬼、きたーっ

中西 で……海で……鬼が死んで、娘も死ぬ。いや、しょうがないでしょ。

三森 ……死ぬのが流行ってんのか。

伊藤 じゃ死ぬ話考えましょうよ。

中西 全国ねらうか。

三森 じゃ、インフルエンザでみんな死ぬ。

伊藤 それ、しゃれにならないす。

大淵 イマイチ、だね。

三森 そうかな？ 有り、じゃない？

伊藤 あ！（と思いついて）異常気象でみんな死ぬ！

大淵 そんなの芝居にできないよ。

伊藤 じゃあアイドルが薬物でハイになって、逃亡して、自首して、介護の学校で立ち直って、みんな死ぬ。

三森 おもしろ過ぎるだろ。

大淵 「みんな死ぬ」って誰だよ。はい、かに！

中西 え、ちょっと待って……じゃ豪華客船でみんな死ぬ！

大淵 面白くねえよ。おまえ部長なんだから何とかしろよ。

中西 自分だって副部長じゃん。

三森 ちげえねえ。

中西 ぶっちは何がやりたいの？ 結局。

大瀨 あたしは……さあ

中西 うん

大瀨 何でもいいんだよ。とにかく芝居がやれば。

三森 でも、何でもってわけじゃあないんでしょ。

大瀨 そうだけどさ

伊藤 自分は何でもいいです。先輩の決めてくれたやつで。

中西 そういわれてもねえ。

三森 またさ、学校始まってから考えようよ。

大瀨 だって、コンクールだよ。

中西 多分中止だよ。

大瀨 あつたらどうする？

三森 いや、ないでしょどう考えても。

伊藤 せっかく作って、大会ないのはキツイです。

大瀨 あたし達の代、最後だよ。うっしー達はいいかもしれないけどさ。

間

伊藤 すみません。

間

その時弟が部屋へ入ってくる。何も言わず、第七巻を返し、第八巻を持って行く。

中西 あ、ジュースでも買ってくるわ。

三森 場所わかる？ コンビニ……

中西 え、道に出てあっち？……

三森 あたしわかる。じゃ、あたしも行ってくる。

中西 ぶっち何か買って来ようか？

大瀨 別に、いい。

三森 行ってきます。

中西と三森は出て行く

伊藤 すみませんでした。

大瀨 ……いや、うっしーは別に、いいんだけどさ。

伊藤、窓から外を見て

伊藤 あ、二人乗りだ、いいな。……あの二人、いつから付き合ってるんですか？

間

大淵 いつからだっけかな。

伊藤 長いんですか？

大淵 うーん、長いんじゃない。

伊藤 や、なんか、まだ部活入ったばかりの時に見たんですよ。ケヤキで。だから、みんな公認なんだと思ってたんですけど、なんか部活では……そういう気配ないじゃないですか？

大淵 そうだね。

伊藤 で、別れたのかなと思うと、けっこうそうでもない感じだし。

大淵 なんかね、あんな感じだよ、いつも。

伊藤 やっぱそうなんすか。……でも、けっこういい感じですよね、あの感じ。

曲「マリアンヌ」が流れてくる。じつと聴く大淵・伊藤

大淵、妄想の世界で伊藤を殺そうとするが、ふと我に返る。

大淵ラジカセ止めて。

伊藤 おーっ(感激して)

大淵 どう？ いい感じでしょ。

伊藤 なんかない不思議な感じですよ。カッコイイ。

大淵 カッコイイよね。さすがうっしーだ。

伊藤 これ、使うんですか劇に。

大淵 使うよ。もう去年から考えてたんだよね。これ。

伊藤 なんかせくくないすか、この曲。あり得ない感じですよね。

大淵 そこがいいんじゃない。

伊藤 や、どこで見つけてくるんですか、こんなの？

大淵 それは言えないなあ。

そこへ中西帰ってくる。

中西 はい、三ツ矢サイダー。

大淵 ありがと。道わかった？

中西 うん、だって看板見えるじゃん、けっこう遠くから。

伊藤 あれ？ 三森先輩は……(と言ったところでストップモーション)

伊藤、夢遊病のように出て行く

中西 はい、三ツ矢サイダー。

大淵 ありがと。道わかった？

中西 うん、だって看板見えるじゃん、けっこう遠くから。
大瀨 おお、冷えてる。(飲んで) やっぱサイダーは三ツ矢だよ。
中西 他に、あったっけ？
大瀨 あるでしょ、なんか。
中西 ……そうだっけ。
大瀨 サイダーは三ツ矢だよ、やっぱり。
中西 なんかいよいよね。(と飲みながら)
大瀨 今日泊まっていくでしょ？
中西 え？
大瀨 大丈夫だよ。親もないしき。
中西 でも、ウチに言っただけじゃないしなあ。
大瀨 いいじゃん、たまには、無断外泊。
中西 えー！……

そこへ伊藤現る。

伊藤 中西先輩泊まっていけないんすか？
中西 うん、ご飯までに帰るからって言っちゃったし。え、うっしー泊まってくの？
伊藤 あたしそろそろ帰ります。いや、お二人に気を遣ってるわけじゃあないですよ。
大瀨 え、だってまだ決まってるじゃないじゃん、大会どうするかさ。
伊藤 あ、だけど親に六時に迎え来るように言っちゃったんです。
大瀨 えー、そうなん。
伊藤 あと十五分くらいで来るんで。
大瀨 今日、親もいないしな。せっかくなんだけどな。今日決めちゃわない？
中西 またさ、学校始まったら考えようよ。
大瀨 学校なんかいつ始まるかわかんないじゃん。そんなん言ったら何にも決まんないよ。あと2週間だよ。せっかく三人集まったのにさ、せめて何やるかだけ決めてさ。あと2でもなあ
中西 じゃあ決めましようよ。あたし何でもいいすよ。
伊藤 それじゃあ、決めようがない。
中西 には、今決めなきゃならないとしたら、何？
大瀨 うん、まあこれから新しいの作るのは無理だからさ、実際。
伊藤 そうすよね
中西 先生のヤツ、あの「能」の、「黒塚」、しかないんじゃない？
伊藤 「能」のヤツですか？ それ台本できてんすか？
大瀨 できてないよ。じゃあわかった、あたしが書くよ。

間

大瀨 まあ台詞は少なめってことで、「能」だし、適当に。六十分なくてもいいんでしょ？

中西 三十分以上なら、なんとかなるんじゃないかな。
大 潤 やろうよ

伊藤 人が足りないって言いませんでしたっけ？

大 潤 そんなん何とでもなるよ。

伊藤 いつから練習しますか？

中西 問題、それだよ。学校始まらないからね。

大 潤 じゃあさ来週までに台本作るから、今日金曜だから、来週の火曜か水曜あたりでまた集まろうよ。

伊藤 ここにですか？

大 潤 いや学校が始まったらもちろん学校でやるけど、始まらなかったら、とりあえずここで。

中西 始まりそうもないけど。

伊藤 学校休みってなんか変ですよ。過剰反応だあってウチの親が言っていました。

中西 どうせ冬休みが短くなるでしょ、その分。

伊藤 それ、最悪ですよ。別にインフルエンザだつて死ぬわけじゃないし。

中西 いや二人

伊藤 死んだつて二人ですよ。感染してもふつうに治る人がほとんどですよ。

中西 モッキーも熱出してるみたいだけども。

伊藤 モッキーはたぶん風邪じゃないですよ。あたし先週遊びましたけど、今日は何かの用で行けないって言っていました。

中西 なんだ、仮病か。心配して損した。……学校、早く始まってほしいよね。

伊藤 なんか勉強とか心配ですよ。いままで心配したことなかったけど。

中西 いや、俺たちなんか来年度受験だよ。もっとやばいつて。

伊藤 学校休みだから塾とか行ってる子多いですよ。なんか親に言われて行ってるみたいですけど。

中西 え、なんか焦ってきた。宿題やんなきゃ。

伊藤 あたしも全然やってないですよ。あと8月の終わりに来たじゃないですか、学校からプリント。この範囲を自習しておけつていう。

中西 あんなのやってないよ、もちろん。ホントいつ始まるのかはつきりさせてほしい。

伊藤 (メール見て) あ、何か親が来たみたいなんです

大 潤 じゃね

伊藤 じゃどうもごちそうさまでした。

中西 じゃ、また。連絡するわ。

伊藤 失礼しまーす。

伊藤は帰る。窓から見送る中西。車の音遠ざかる。

大 潤 ごちそうさまで……シミコンしか出してないけど。

中西 じゃ台本、ぶっち書いてくれる。

大 潤 うん

中西 あとはキャスティングだよ。どうする。

大 潤 ……

中西 お坊さんは、やるよ。
大 瀧 うん。
中西 鬼の女の人は、ぶっち、やる？
大 瀧 うん、……あとほうっしーとカズちゃんか。
中西 カズちゃんはせりふ無しで。まあお坊さんしかないから、二人ともお坊さんだね。
大 瀧 頭、剃るの？
中西 いや、それはキツイ。てか、うっしーたちはもつと無理でしょ、女なんだし。なんか帽子見た
大 瀧 いのかぶってるよね。お坊さんも。
大 瀧 あ、なんかこういうヤツ。
中西 そうそう。あるよ。
大 瀧 でも、偉いお坊さんかな、こういうのは。
中西 おじいさんだね。帽子かぶってるの。……まあ、いいか。
大 瀧 いいよ。いつも適当じゃん、うちの芝居。
中西 考えてみれば、去年やったのもけっこうめちやくちやだったよね。
大 瀧 入部したばかりの頃なんかさ、先輩たちとか分けわかんないし、芝居めちやくちやでさ、先
生はテキトウだし。あたしたちが最初にやらされたの覚えてる？ あ、五月にやったやつ！
中西 思い出したくない！（うれしそうに）
大 瀧 二人でさ、すごい部活入っちゃったねってよく言ってたよね。
中西 ー、なつかしい。
大 瀧 うちら、めちやくちややってナンボでしょ
中西 ちげえねえ。
大 瀧 ちげえねえ。……じゃ、書くか。
中西 早速今日から？
大 瀧 書くよ、もちろん。
中西 すごい
大 瀧 かににはダンスがあるからね。
中西 え？……やめてよ。
大 瀧 やめないよ、がんばろうよ。
中西 もういいよ、舞は。
大 瀧 舞がなきや「能」になんないじゃん。すごいやつ作ろうよ。
中西 すごいやつ？
大 瀧 もう見た目勝負でさ、照明なんか薄暗くしてさ、意味不明な感じで。あ、曲は決まってるんだ
よ。
中西 え、ぶっちが選んだの？
大 瀧 そう、待って……

ラジカセのスイッチ入れる。

曲「マリアンヌ」が流れる。

中西は引いて無表情で見ている。

いつの間にか中西は消えている。

大洩、倒れ込み、動かなくなる。
 照明は青く沈む。曲はフェードアウトし、虫の音が聞こえてくる。
 夜になっているようだ。

ぼんやりと明かりが差し、制服姿の三森がいる。

大洩 あ、なっちゃん……

三森 ぶっち、部屋片づけなよ。

大洩 うん

三森 このポスターも、ねえ。

大洩 だめかな？

三森 何で破いちやうの？

大洩 ……。職員室行ってきたの？

三森 うん

大洩 なんで？

三森 ぶっちのこと、先生に聞いてきた。

大洩 なんだって？

三森 わかんないって。

大洩 うん

三森 部屋、片づけなよ。やばいよ、この部屋。

大洩 うん。……ごめん。

三森 ……

三森 ドアから去る。

大洩、取り残される。

突然、ドアが開いて弟が入って本を取ろうとする

大洩 勝手に入って来ないでよ！ 出てけ！ 出てけよ。早く！ 早く出てけよ！

モノを投げ怒り狂う大洩。 弟、無言。だが、

弟 ふん、学校いけよ。

捨てぜりふを残し弟は出て行く。

取り残される大洩。

虫の音高く聞こえる。

そのとき、ドアが開く。

大淵

あ、カズちゃん

しかし誰も入っては来ない。

ストップしたまま、幕。

